

‘18(平成30)年10月31日



# 11月釜小だより

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



## 「動」から「静」のシーズンへ

学校長 岡野 真由美

10月25日午後6時ごろ、東の低い空に大きな満月が浮かびました。少しオレンジがかっていて、ウサギが餅つきしているような模様がはっきりと見えました。立ち止まってスマホ撮影している人も何人かいたほど美しい姿でした。この時期になると、校舎裏のイチョウが金色に色づいた葉をひらひらと躍らせて見せるのに、今年は茶色くかさかさになって立ち枯れたようになっていきます。台風24号の強風による塩害だそうで、この秋の紅葉はかなり内陸でないと楽しめないようです。

深まる秋、10月20日には運動会が予定通り行われました。昨年の雨にたたられた練習と当日のことを思えば、今年ではできすぎるくらいの天候に恵まれました。演技も競技も練習の成果を発揮して、輝くような子どもたちの笑顔があちらこちらで見られました。145周年を祝ってPTAより寄贈していただいた紅白の大玉を使った競技は、最終得点に大きな影響を与えました。今年も赤組の優勝でした。終了後、テントの片付けを手伝っていただいた方から、「去年は仕事で見られなかったのが、今年も二回分楽しめました。」というお話を伺うことができました。朝早くからの応援、本当にありがとうございました。

さて、運動会という「動」の行事が終了し、じっくりと落ち着いた学習活動に取り組みたいころとなりました。秋の夜長、静かに読書に親しむのにもふさわしい季節です。

今、管理棟の2階廊下には、「先生たちの読み聞かせ」ポスターが掲示してあります。どれもなかなかの力作です。これは読書週間(10/29~11/9)の取組の一つで、釜利谷小学校ならではの毎年のお楽しみです。ここを通るとき、子どもたちは読み聞かせの日にはどの教室に行こうかと、一度は立ち止まって考えます。先生たちは図書館に足を運びあれこれと本を手にとってみて、どんな本なら子どもたちは楽しんで聞いてくれるだろうかと思いを巡らせて選びます。どんな言葉や絵を入れたら子どもたちの目を引くか考えてポスターを作成します。また、読み聞かせの日までに、声に出して何度も読む練習をします。絵を見せながら読むためにはどうやって本を支えたらよいか、どのようにページをめくるかなども研究します。準備はたくさん必要ですが、子どもたちの反応を間近に見られる楽しみな取組でもあります。

子どもたちの読書は国語の読解力を育てるための一つの有効な手立てだといわれています。決して数多く読むほどいいわけではなく、いろいろなジャンルの本を読む「幅広い読書」が大切だという研究結果もあります。「読書すること」が「読解力」と直結するかどうか興味のあるところですが、本を読むことによって得られるあの何とも言えない満ち足りた思いは、それを越えるものがあります。

さあ、読書週間を機に、今年も本の世界にひたってみませんか。